

三重県青少年赤十字活動報告会

開催日時 令和7年5月27日(火) 開催場所 日本赤十字社三重県支部

令和7年5月27日(火)、三重県青少年赤十字活動報告会を開催しました。
この報告会は、各加盟校が青少年赤十字の実践目標に沿って取り組んでいる活動を、校種を超えて互いに交流することで、より活発に青少年赤十字活動が展開されることを目的としています。当日は幼稚園、小学校、中学校、高校の3校・園から、各校・園で取り組んだ活動を紹介していただきました。

すずか幼稚園 野菜の栽培・収穫

本園の取り組み

健康安全



食育の取り組み

4月から8月
夏野菜の苗を植えて育てる
成長の様子を観察する
収穫して家に持ち帰り食する

9月から1月
大根の種をまき育てる
成長の様子を観察する
収穫して家に持ち帰り食する

すずか幼稚園では、野菜の栽培や収穫を通して、健康安全に配慮のできる人間を育てています。キュウリやナスなど夏野菜を園児自身の手で植え付け、毎日水やりを行いました。野菜が成長していく様子を観察し、収穫の際の野菜の様子を実感することで、生命の大切さを学びました。また、だいこんの収穫では、家庭に持ち帰り食することで、自然界に感謝する気持ちを学ぶことができました。

名張市立北中学校 名張市合同防災訓練と連携した避難訓練・防災学習



当日午前には各地区で地域の住民と合同防災訓練と連携した避難訓練を行い、午後からは学校で防災学習を実施。避難所開設訓練に参加し、避難者の受け入れや急病者対応訓練などを行いました。地域の方にサポートしていただきながら、各担当を責任持って行動し、また、リーダーとして活躍する場面も数多く見られました。訓練を通して地域の一員としての役割を学び、考えて行動することができました。

津市立養正小学校 台湾・昆山小学校との交流



台湾の昆山(ワンサン)小学校の生徒を招き、音楽を中心とした交流会を行いました。午前中は6年生と一緒に和太鼓の授業を受け、昼食の時間には5・6年生と一緒に食事をして、タブレットの翻訳機能を利用しながら楽しく喋って過ごす時間になりました。午後からは全校集会にてお互いの学校を紹介したり、金管バンドクラブと昆山小学校児童とが一緒に演奏を行ったり、全校で合唱をしたりして交流を深めました。

三重県立熊野青藍高等学校(木本校舎) 木本高校JRC部の活動

・HR制の導入・交流会の実施

3. 部員の取り組み

やってみた!の内容

アイスブレイク
宝探しゲーム
じゃんけん大会
etc...

木本高校JRC部*はバルーンアートや募金活動、地域のボランティア活動に参加しています。夏に開催されたトレセンのワークショップで、「活動への参加率が低い」ことが課題として挙げられ、検討を重ねた結果、「部員同士の交流が少ない、または一部のひとしか交流がないから、参加率が低いのではないか」ということに気づきました。そこで、トレセンのようなHR制を取り入れ、グループに分かれて、アイスブレイク・宝探しゲーム・じゃんけん大会を開催。その結果、話したことのない部員と話すことができたり、協力して取り組みたり、部員の意外な一面や頼りになる姿を見ることができました。

*木本高校は令和7年度に紀南高校と統合し、熊野青藍高校となりました。



青少年赤十字

第37号

発行 日本赤十字社
発行 三重県支部
令和七年十月



令和7年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター

タベのつどい

災害時を想定したカレー作り挑戦。慣れない作業の連続でしたが、自分たちでやり方を考え、作業を分担しながら完成させたカレーは格別な味になりました。



高校生

令和7年7月23日(水)～25日(金)

国際理解・親善

大阪万博会場とオンラインで繋いで、アフリカ・マラウイ共和国の実情を学び、世界で貧困に苦しむ国・地域への支援活動の意義や、自分たちに何ができるかを考える機会になりました。

35名の生徒たちが参加し、津市青少年野外活動センターで開催された高校生トレセン。2泊3日の研修やグループ活動のなかで、お互いを尊重し合える話し合い方法なども生徒同士が自ら学び、リーダーシップを育てていきました。

参加した生徒たちからは、チームのメンバーが一ひとり自分の役割を果たしながら支え合う「シェアドリーダーシップ」の大切さを知ったという声が聞かれました。

最初は遠慮気味な態度だった生徒が研修やグループ活動を通じて積極的に意見を発信できるようになっていく姿も。参加者一人ひとりが成長を実感できる3日間になりました。



皆が自分の役割を自分で考え、行動した成果が詰まったカレーです

食材の下準備や薪を使った火起こしなどの慣れない作業に挑戦した生徒たち。食事中にはお互いの頑張りを称え合う声も聞かれました。



フィールドワーク

研修で学んだ内容を生かして、さまざまな関所をクリア。皆が意見を出し合い、グループの結束が高まりました。



いざというときに応急処置ができるよう、頑張ってマスターしました



救急法

AEDや胸骨圧迫による心肺蘇生や、三角巾を使った応急手当の方法などを実践しました。



災害時の活動内容について、活発な意見が交わされました

防災・減災

避難所運営のシミュレーションを通じて、災害時に食料をどのように分けるかを皆で検討。日常のシステムが崩れたときに、ゼロから作り上げていく力を育みました。



子どもや妊婦、高齢者の方などにどのような配慮が必要か、優先順位のつけ方など、さまざまな条件を検討するなかで、災害時に大切な行動を学ぶ機会になりました。

良いリーダーとは

コンセンサス(合意)ゲームを行いました。雪山に遭難した設定で、生き延びるために話し合いにより10個のアイテムが必要な順に並べました。



VS・HR



*VS (ボランティアサービス)
*HR (ホームルーム)

VS・HRともにグループ内でリーダーを決め、話し合いを進めていくなかで、リーダーシップとフォローシップが育まれました。

参加者の声

「トレセンでの経験から、今後話し合いをする際に意見の対立が起こっても、相手の意見を一度は必ず共有して、レベルアップした話し合いをしていきたいと思いました」
「1日目は自分から発信することができず、受け身になってしまっていたが、2日目からは色々な場面で発言できるように意識して取り組みました」
「チームのメンバーが一ひとり支え合い、目標の達成を目指す「シェアドリーダーシップ」の大切さ、そしてリーダーは各自の特性を理解し、上手く巻き込んでいくことが重要だと思いました」
「フィールドワークではメンバー全員が意見を出し合い、行動していくことができました」

参加校
熊野青藍高校(木本校舎)・熊野青藍高校(紀南校舎)・白子高校・高田高校・久居農林高校

編集後記

第37号は、三重県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(トレセン)の記事を中心にまとめた。本年度のトレセンは中学校・高校は2泊3日、小学校は、2日間泊りで実施しました。参加児童・生徒数は、高校生35名、中学生37名、小学生15名計87名の参加となりました。参加いただいた学校様のご協力に、心より感謝申し上げます。
小学校トレセンは三重県支部で開催。災害支援センターの機能を生かし、避難所体験型の「防災・減災」の講座を実施できました。災害時プライベートメントや段ボールベッドの組み立て等を体験したり、「避難所体験ゲーム」を行い、防災の意識が高まりました。
また、指導者の先生方と協議して、宿泊は伴わないものなるべく宿泊トレセンに近い形で実施しよう、従来のトレセンで行ってきたホームルーム(HR)やボランティアサービス(VS)・掲示板を取り入れることで、参加した児童が「気づき」「考え」「実行する」態度目標を体で体験することができました。
参加された児童・生徒の皆さんの成長ぶりを見て、その意義深さを改めて実感しました。今後、参加者が増えるよう開催案内の工夫をしていきたいと思っています。

JRC態度目標

気づき
考え
実行する

令和7年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター

三重県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(トレセン)が津市青少年野外活動センター(高校生・中学生)、日本赤十字社三重県支部(小学生)で実施されました。参加してくれた児童・生徒たちの熱心な活動の様子をご紹介します。

JRC実践目標

健康・安全
奉仕
国際理解・親善

中学生

令和7年8月4日(月)～8月6日(水)

スタンツ

研修で学んだ成果を劇形式で発表。小道具や音声にもこだわったりと、各HRが工夫を凝らしてステージを賑わせてくれました。

HR(スタンツ準備)

各HRごとにスタンツで発表する劇を練習。台本を練り上げ、小道具を準備して、納得のいくまで何度もリハーサルを行うなど、熱心に準備を重ねて本番の舞台に臨みました。
※HR(ホームルーム)

災害時シミュレーション

災害が起こった時に、何を優先して持ち出せばいいかを話し合い、事前に準備しておくことの大切さを学びました。

VS

レク・食事・生活の3つのグループに分かれ、参加者自身で活動内容を考えました。

災害時に自分たちがどのような行動ができるのか、ゲームや体験を通して知る機会に

小学生

令和7年7月29日(火)・30日(水)

避難所運営体験

被災者がスムーズに避難所生活をおくれるように、さまざまな状況の変化に対応しながら、避難所の運営に取り組みました。

良いリーダー

グループごとに「竹ひごタワー」を作り、高さを競い合うゲームを実施。みんなで意見を出し合い、合意を得ながら協力して作業を進めていけるかどうかが問われました。

タワー作りという目標に向けて、グループのメンバーがそれぞれの役割を果たすことが求められました。

救急法

大きな三角巾を使って、頭のケガや腕の骨折などの応急処置の方法を学びました。初めて見る三角巾でしたが、上手に手当てすることができました。

非常食実習

炊飯袋「ハイゼックス」を使った非常食作りに挑戦。大きな釜の中で一人用のご飯が炊き上がることに驚きの声が上がりました。

学びの発表

研修の仕上げとなる「学びの発表」。2日間で学んだ内容をグループごとにそれぞれ工夫を凝らして発表しました。



参加者の声

「三角巾で手当てをする方法を学んだとき、布1枚でさまざまな手当てができることに驚きました。複雑なところもあるけれど、覚えておきたいと思いました」
「高さを競い合う竹ひごタワー作りでは、リーダーがどのような指示を出すかや、みんなが意見を出し合うなど、チームワークが大切な役割を果たしました」
「段ボールベッドというのがあることを初めて知りました。組み立てるのは難しかったけれど、みんなで協力するのが大変なんだと知ることができました」
参加校 育生小学校・大里小学校・北立誠小学校

加盟数

幼稚園	43
保育園	10
こども園	19
小学校	246
中学校	84
義務教育学校	1
高等学校	7
特別支援学校	1
合計	411

令和7年度の加盟校・園

令和7年度、加盟登録をしていた学校・園は、411校・園です。加盟いただきありがとうございます。本年度の小学校の加盟率は、それぞれ73%・57%となりました。本年度は、昨年度より加盟校が10校・園減少しましたが、こども園の加入が増加しています。幼稚園の園児数の減少と廃園が多く、今後は、園児数の少ない幼稚園でも加盟できるよう検討していきたいと思っています。

青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標に、「気づき・考え・実行する」を態度目標として学校教育の現場で活動していただいています。出前授業も行っています。本年度は、「避難所体験ゲーム」の講座も新たに開設いたしましたので、出前授業の派遣希望があれば、連絡ください。津市あつたに完成した新社屋では、防災教育プログラムをはじめ、社屋の見学も計画しています。遠足や社会見学等でご活用ください。



救急法

AEDによる心肺蘇生や胸骨圧迫、三角巾を使った処置などを実施。緊急時に落ち着いて行動するための知識を身につけました。



フィールド・ワーク講評

それぞれのフィールドワークの狙いを解説しながら、各HRの奮闘ぶりを採点。優勝者から第7位まで、結果発表は大いに盛り上がりしました。



ゲームをクリアするために全員が声をかけ合ったり、熱心に話し合いを行ったりと、フィールドワークは各HRグループの結束が高まる時間となりました。

参加者の声

「トレセンでは自分から動いて活動していくことが多く、良い経験になりました。自分だけでは動けない時は周りの子と確認したりして、協力する大切さわかりました」
「学だけでなく、仲間と協力して一つのことを成し遂げるために自分たちで考えることや、失敗しても話し合い、改善していく体験も得られました。今後の学校生活に生かしていこうと思います」
「今まで何かに積極的に挑戦してみようと思ったことはなかったけれど、みんなが村長や副村長になろうと手を挙げているのを見て、「ここで挑戦しないといつ出来るようになるんだ」と思っ挑戦してみました。この経験は今後も忘れずにいたいと思います」

参加校 橋北中学校・一身田中学校・南郊中学校・豊里中学校・西橋内中学校・東橋内中学校・三重大学附属中学校・西郊中学校

村長選

リーダー役の「村長」を決める村長選。多くの生徒が勇気を出して立候補し、普段苦手なことにも挑戦する意欲を見せてくれました。



掲示板

研修中は先生からの指示ではなく、掲示板に貼り出された連絡事項を見て、各自が判断して動くのがトレセンの特徴のひとつです。



レク

最初は緊張気味だった生徒たちも、レク活動を通してすぐに打ち解け、参加者同士の仲を深めていきました。レクの活動内容も生徒自身が考えています。

